

ベネズエラの最新動向(11月16日～11月30日)

I. 政治・経済

1. 11月のインフレ率は20.7% (年率)

- 12月3日、ベネズエラ中銀は2007年11月のインフレ率が前月比4.4%上昇し、年率20.7%となった旨発表した。月率ベースでは、2003年2月以来、年率ベースでは2004年9月以来の高い上昇率となった。
- インフレ率上昇の主な原因は、一部の価格統制対象商品の価格引上げ、11月から導入された金融取引税(1.5%)の他、慢性的に過剰な通貨ボリバルの流通量、及び食料品の品不足等。

II. 外交

1. 人質解放交渉を巡り、ベネズエラとコロンビアの関係が悪化

- 11月21日、コロンビアのウリベ大統領が、同国における人質解放交渉を巡り、チャベス大統領を仲介役から外したことを理由に、11月25日、チャベス大統領はコロンビアとの関係凍結を表明した。
- ウリベ大統領はコロンビアの左翼ゲリラ FARC による人質事件の解決に向け、チャベス大統領による仲介を年内迄の期限付きで依頼していた。しかしウリベ大統領は、チャベス大統領がコロンビアの軍部に直接コンタクトする等、両国の合意に反する方法を採ったとして、チャベス大統領による交渉を急遽中断した模様。
- 通常は良好な関係にあったチャベス・ウリベ両大統領がお互いを激しく批判し合う等¹、両国の関係が悪化しており、2国間の今後の貿易等に悪影響が出ないか一部で懸念されている。
- しかし、マドゥーロ・ベネズエラ外務大臣は、具体的な貿易規制等の計画は現時点ではない、と発言。また、2007年10月に開通したコロンビア・ベネズエラ間の天然ガスパイプラインについても、予定通り準備が進んでおり、2008年1月にはコロンビアからベネズエラに向けて輸送が開始される見通し²。

以上

¹ チャベス大統領は、ウリベ大統領を「嘘つき」「北米帝国の手先」等と批判。ウリベ大統領も、チャベス大統領は帝国主義的野望を抱くのみで、コロンビアの国内の治安改善に協力する誠意がない等と批判した。なお、ベネズエラは11月27日付で駐コロンビア大使を召還している。

² コロンビアの国営石油会社Ecopetrol総裁の発言より。

本レポートは発表時の最新情報に基づいて作成されておりますが、情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、レポートの内容は今後予告なしに変更されることがあります。予めご了承下さい。